令和5年度〔 自己評価報告書 〕

学校番号	学 校 名	校 長 名
8	川崎市立渡田中学校	山川 俊英

学 校 教 育 目 標	今年度の重点目標
○ 勤労を愛し、実行力を持った人 ○ 学習に励み、真理を愛する人 ○ 公共物を愛護する人 ○ 誠意のこもった礼儀作法を身につけた人 ○ 明るく心身ともに健康な人	(1)確かな学力の育成(学習意欲を高める、支援教育の充実、授業のユニバーサルデザイン化) (2)豊かな心の育成(自己有用感・豊かな心の育成、自他の生命を尊重する心の育成、人権尊重意識の向上) (3)安心・安全な学校づくり(健康・安全で活力ある生活を営む資質と能力の育成、健康・安全の管理) (4)地域との連携(保護者・地域との連携、「地域とともにある学校づくり」の推進、定期的な情報の発信)

評 価 項 目		具 体 的 な 取 組	成 果 と 課 題	具 体 的 な 改 善 策
1	確かな学力の育成	・GIGA端末を積極的に利用した授業の実践と公正な評価・評定の実施 ・基礎的・基本的な知識・技能の習得と、思考力・判断力・表現力の育成 ・「学習相談日」を設定し、生徒のニーズに沿った学習支援 ・「わかる授業」を心がけた、きめ細やかな指導の実施 ・授業のユニバーサルデザイン化を授業研究の柱に据えた支援教育の推進 ・インクルーシブ教育を含めた校内支援体制の推進と「合理的配慮」の提供 ・生徒・保護者のニーズに応じた取り出し・入り込みによる個別支援の充実 ・GIGAスクール構想によるICT活用による授業実践の深化	・「わかる授業」を通して、生徒が学ぶ喜びを実感することができた。 ・全学年の数学できめ細やかな指導を実施した。 ・授業のユニバーサルデザイン化を目指し「視覚化」「焦点化」「共有化」の3つの要素を指導案に入れ、授業研究を進めた。 ・授業のユニバーサルデザイン化の観点から教科の枠を越えて実施してきたが、学習指導要領への対応を考えると、教科ごとの研究を深める必要がある。 ・合理的配慮の提供について、合意形成に至るまでの校内プロセスを検討し、全職員で共通理解した。 ・積極的なGIGA端末の利用を促したが、双方向の授業実践にはさらにGIGA端末の有効活用が必要である。	・多種多様な教育的ニーズに対応できる学びの場の確保と共に、校内での支援体制を一層充実させていく。 ・きめ細かい学習指導が行えるような学習相談の形態を工夫する。 ・外国につながる生徒も含めて、個に応じた授業での個別支援の方法、授業の進め方の研究を進める。 ・公正な評価・評定の実践を重点課題に位置づける。指導と評価の一体化を検証し、主体的・対話的で深い学びを目指す授業改善を進める。 ・来年度は支援コーディネーターを各学年におき、支援会議を有効に活用し、個別の支援を必要とする生徒の把握に努め、その対応を組織で協議していく。
2	豊かな心の教育の推進	・「特別の教科　道徳」の研究推進をとおして、豊かな心の教育を推進していく ・生徒の自主自立的な活動の充実 ・キャリアパスポートを利活用した「キャリア教育」の実践 ・いじめ未然防止のための校内いじめ防止対策会議の定期的な開催 ・計画的な教育相談と「共生＊共育プログラム」と「効果測定」の活用と「SOSの出し方・受け止め方教育」の実践 ・SNS等の使い方について情報モラルの観点から、情操を育む ・人権尊重教育のさらなる充実	・「キャリア在り方生き方教育」の実施について「特別の教科道徳」との教科横断を含め、キャリア教育の充実を図り、社会人を招き講演会を行った。 ・支援会議・校内いじめ防止対策会議・職員会議において、定期的な情報交換を行い、個々の案件についての対応を協議した。 ・教育相談アンケートを実施し生徒理解に努め、「共生＊共育プログラム」「効果測定」を活用して学級内の関係づくりに役立てた。 ・「特別の教科　道徳」では各学年で適宜教材を用い内容項目に基づいて授業をおこなうとともに、授業方法についてもいろいろ取り入れた。 ・「特別活動」では校内リーダー研修会を実施し、外部講師を招へいし、GIGA端末を積極的に利用しリーダの育成に努めた。 ・人権尊重教育について全校で行い、「いじめ標語」を作成し、生徒個々人の人権意識を高めた。	・特別活動・道徳科・総合的な学習の時間においても「キャリア在り方生き方教育」との関連を進める。 ・「SOSの出し方・受け止め方教育」を実践し、生徒の抱える課題の把握について共通理解をしていく。 ・企業等のプログラムを活用し、情操を育む機会を増やしていく。 ・生徒が安心して生活できるように、9年間の義務教育を見通したルールを生徒が自主的に定められように支援していく。 ・さらに有効な教育相談や共生＊共育プログラムが行えるよう時期や回数などを検討する。 ・「令和の日本型教育」の実践について研修を行い、情操教育の実践につなげていく。 ・道徳科をはじめ各教科の取組をGIGA端末の活用を中心に推進していく。
3	健康・安全教育の推進	・部活動の安全確保 ・「生徒の安全に関わる情報発信システム　ミマモルメ」による情報の配信 ・防災下校訓練の計画的な実施 ・3年間を通した計画的な健康教育の実施 ・安全に配慮した学校給食の実施 ・体育祭の内容の見直し ・下校時の交通安全指導 ・AED、アレルギー対応の研修実施	・熱中症予防を徹底し、部活動等の安全な活動を保証するための熱中症予防講演会、心の健康、風邪・インフルエンザ予防講演会など、計画的に実施した。 ・「生徒の安全に関わる情報配信システム　ミマモルメ」を活用し、適切な情報配信を行い、生徒の安全を確保した。 ・災害を想定した避難訓練を行った。 ・食育の充実を図り、アレルギーへの対応、職員の役割分担、必要に応じての面談など校内ルールの策定に取り組んだ。 ・アレルギー対応、心肺蘇生法について外部講師による研修会の実施	・部活動の安全確保のための、ガイドラインなどの見直しを行う。 ・一斉下校と部活動時の下校に分けた下校形態を充実する。 ・健康教育の効果的な実施内容と実施時期の検討をしていく。 ・生命を尊重した学校生活を考慮しつつ、健康教育を推進していく。 ・災害時の生活を想定した、現実的な避難訓練を実施していく。 ・体育祭での種目をさらに検討する。 ・授業での安全の確保。

4	地域とともにある学校づくりの推進	・積極的な学校の取組の公開 ・学校説明会の充実 ・PTAとの連携の充実 ・地域との連携の充実 ・民生委員・保護司との連携強化 ・ホームページによる情報の発信 ・コミュニティースクールへの移行準備	・定期的なHPの更新、地域教育会議の場を活用して、地域へも積極的な情報発信を行った。 ・学校説明会では、新たに学習指導と評価の計画(シラバス)の提示や高校改革の情報提供を行い、内容を充実させた。 ・PTA役員会への関わり方を深め、連携を強化した。 ・学校からの情報発信についてHPを活用した。 ・「生徒の安全に関わる情報配信システム　ミマモルメ」による学校の教育課程についての発信を増やした。 ・生徒会を中心にルールの見直しを図り、外履き、靴下の色など条件を緩和した。	・PTAのあり方についてPTA役員、代表委員会にて検討を行いよりよい活動を考察していく。 ・学校教育推進会議では、忌憚のない意見を発表する場とし、地域とともにある学校づくりに向けて意見交換の場としていく。 ・地域教育会議と学校の連携について、さらなる連携を構築していく必要がある。 ・学校運営協議会を令和7年度スタートと想定し、地域人材、有識者など学校教育について意見を出していただく機会を設定する。 ・学校評価の結果では、学校の取組について今年度も「よくわからない」と回答した保護者が相当数見られたため、さらに工夫した情報発信を行う。 ・学校の「ルール」について生徒会を中心に検討を重ねていく
5	組織の運営	・「働き方改革」の一層の促進 ・主任会の機能向上 ・教職員の資質の向上と指導力の育成 ・校内研修の充実 ・関係機関との連携	・GIGA端末を積極的に活用して職員間の連携を図った。生徒が活動している時間内の会議を減らし、合理的な話し合いを行った。 ・それに伴い、「朝の打ち合わせ」を極力時間を短縮した。会議のペーパーレス化を図った。 ・定期的に主任会を開き、情報を共有する中で、課題についての考え方や整理の方向性を話し合い、迅速に対応した。 ・「働き方改革」等の職員の意識を向上させ、学校組織の機能を向上させた。 ・部活動の活動時間について見直しを図り、顧問、生徒の負担の軽減を図った。	・重点課題推進委員会・特別委員会の機能を向上させる。 ・情報共有をより徹底し、教職員の職責について自覚を促し、業務改善につなげていく。 ・より公正な評価・評定のために教科にとらわれることなく、渡田中学校の評価の一体化を図る。 ・「報告・連絡・相談」により情報を共有化し、迅速かつ的確な指導を行う。

学 校 関 係 者 の 評 価	学校運営のまとめ
＜保護者アンケートより＞ ・子どもが学校の生活を楽しんでいる。 ・学年だよりなどが定期的に発行されていて、学校やクラスの様子を伝えようとしている。 ・一部と思うが、教員の言葉遣いや授業の内容が気になる。 ・複数の先生方できめ細やかに対応していて、授業がわかりやすい。 ・学校の取組についてさらに情報発信をしてほしい。 ＜学校教育推進会議より＞ ・小規模校としての良さをいかすべき。 ・地域人材を積極的に学校が活用すべき ・生徒の落ち着いた生活をうかがい知ることができる。 ・落ち着いた学校生活で地域も安心できる。	＜今年度のまとめ＞ ・かわさき教育プランを踏まえ、学校経営方針に基く学校運営を行った。 ・新型コロナウイルスの影響を払拭しながら、コロナ前の学校生活の充実に努めた。 ・川崎市が目指す「支援教育」の方向性を本校の教育活動として明確にし、支援コーディネーターを中心に、生徒のニーズを共通理解し支援した。 ・「共生＊共育プログラム」を定期的に実施し、「効果測定」を活用し、生徒理解を深めることができた。 ・主任会・支援会議・職員会議の情報交換から課題となった個々の案件について、児相等関係機関と連携して、迅速な対応ができた。 ・「生徒の安全に関わる情報配信システム　ミマモルメ」を活用し、適切な情報配信を行った。 ・HPを活用し情報の発信をした。また、週1回の学年だよりにおいて、生徒の活動の様子を保護者に伝えた。 ・「特別の教科　道徳」の研究推進の成果を市内に発信できた。 ＜次年度へ向けての取組＞ ・「かわさき教育プラン」と連動した学校経営と、短期経営計画と重点目標の再設定 ・「特別の教科　道徳」の全国大会の会場になることから、さらに研究を進め全国に発信をする。 ・「キャリア在り方生き方教育」のさらなる充実 ・授業のユニバーサルデザイン化のさらなる推進 ・生徒の個に応じたきめ細やかな指導の研究推進 ・「SOSの出し方・受け止め方教育」を実施し個々のニーズに対応する「支援教育」の充実と「合理的配慮」の提供 ・部活動の活動方針に則った適切な部活動の実施 ・「働き方改革」を意識した学校経営